

福島SC 公開講演会（福島学習センター）

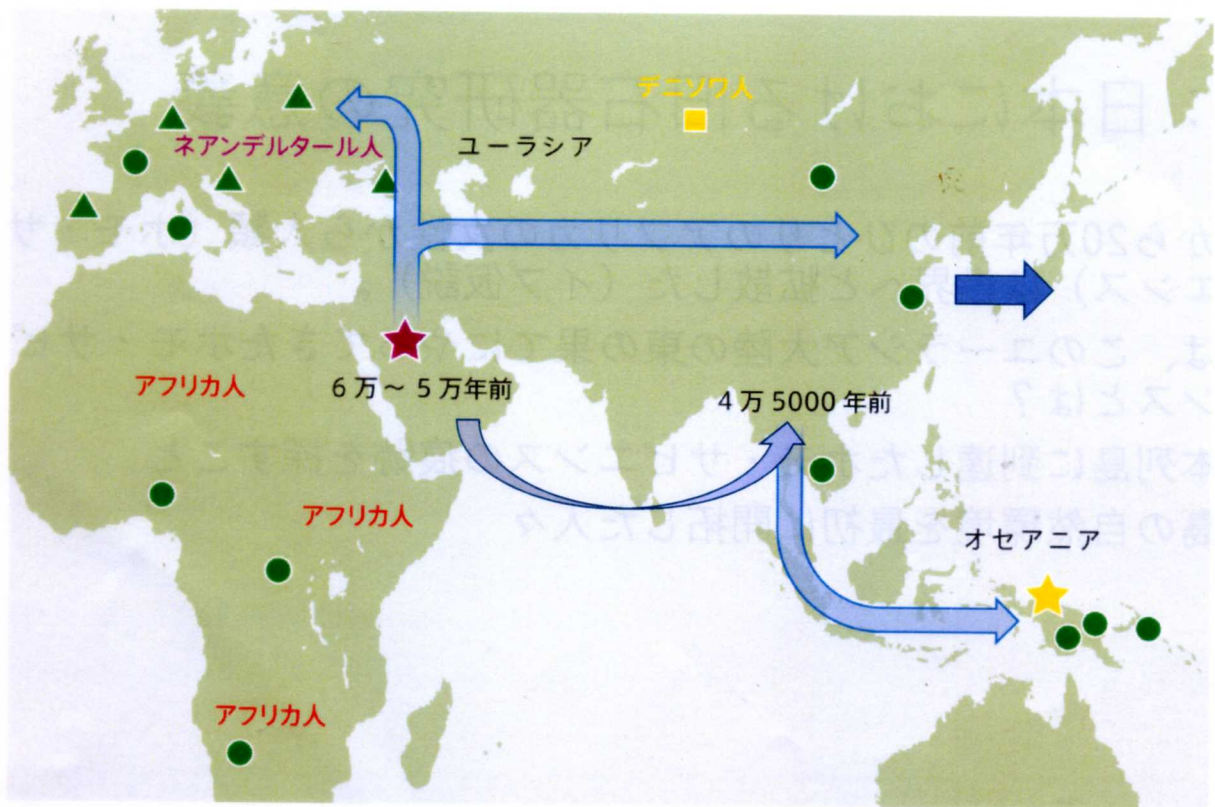
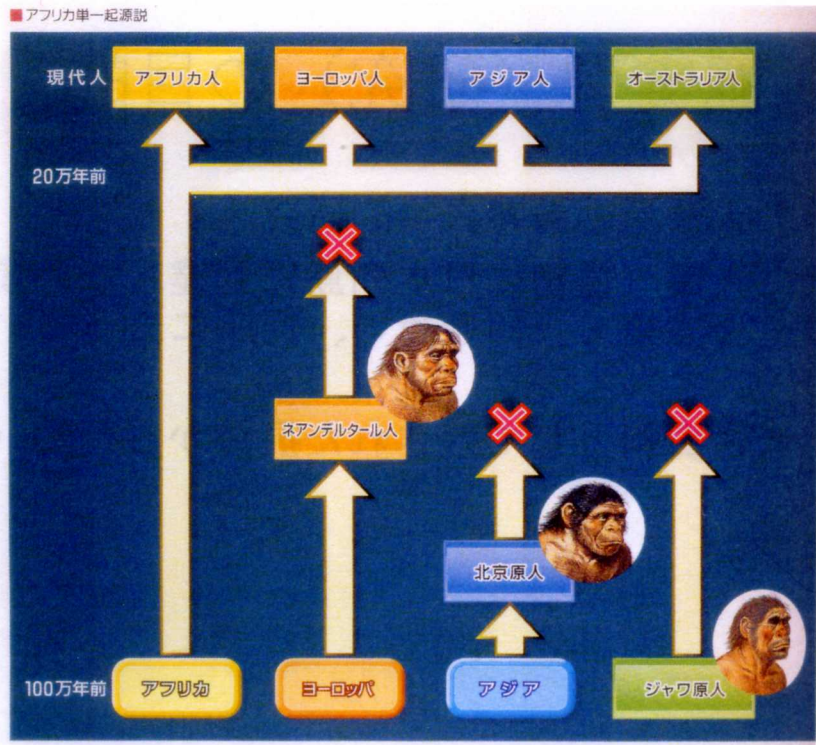
猪苗代湖畔に人類の足跡 を求めて

－発掘ガールとともに23年－

郡山女子大学短期大学部地域創成学科教授
放送大学客員教授 會田容弘

1. 自己紹介

- 考古学との出会い（小学4年）
- 山形県立図書館で出会った本
- 高座遺跡の発見（中学1年）
- 人生三度目の分かれ道：43歳の転職
- 考古学発掘実習の目的



考古学発掘実習（研究）の目的

- 猪苗代湖畔の人類活動の考古学的研究
- 旧石器時代に人類（最初に日本列島に到達した人類）が猪苗代湖畔に何故やって来て、何をを行い、何所に去っていったかを明らかにする
- 実証研究：考古資料として残された痕跡から行動（動作）を復元する
- 研究方法の開発

2：日本における旧石器研究の意義

- 10から20万年前のひとりのアフリカの女性から人類（ホモ・サピエンス）は世界へと拡散した（イブ仮説）。
- では、このユーラシア大陸の東の果てにやってきたホモ・サピエンスとは？
- 日本列島に到達したホモ・サピエンスの痕跡を探ること
- 列島の自然環境を最初に開拓した人々

会津若松市笹山原遺跡No.16の発掘調査

- 郡山女子大学短期大学部文化学科が2001年から調査を開始し、現在も継続。
- 旧石器時代、縄文時代、平安時代の複合遺跡
- 学生の教育と研究の両立をめざす発掘
- 考古学教育の発掘：調査計画・発掘準備・発掘実施・遺物整理・報告書作成・調査成果展示

石器製作動作連鎖を研究するための発掘

- 旧石器人が活動をしていた生活面を正確に掘り出す：「原位置記録」平面発掘
- 石材の分類⇒礫面の検討（産出地推定）⇒母岩分類⇒接合作業⇒接合資料の分析⇒石器の機能分析⇒出土位置に置き戻す⇒石器製作動作連鎖と母岩分類から個人の同定

会津若松市笹山原遺跡No.16の発掘調査

- 郡山女子大学短期大学部文化学科が2001年から調査を開始し、現在も継続。
- 旧石器時代、縄文時代、平安時代の複合遺跡
- 学生の教育と研究の両立をめざす発掘
- 考古学教育の発掘：調査計画・発掘準備・発掘実施・遺物整理・報告書作成・調査成果展示

石器製作動作連鎖を研究するための発掘

- 旧石器人が活動をしていた生活面を正確に掘り出す：「原位置記録」平面発掘
- 石材の分類⇒礫面の検討（産出地推定）⇒母岩分類⇒接合作業⇒接合資料の分析⇒石器の機能分析⇒出土位置に置き戻す⇒石器製作動作連鎖と母岩分類から個人の同定

鋸齒縁石器の刃部作出と使用・破損

- 厚手の頁岩剥片に鋸齒状の刃部を作出
- 鋸齒状に作出するには薄い小さなハンマーが必要
- 石器は使用中に破損。
- 刃部以外の厚い縁辺の使用。廃棄。
- 薄い板状のハンマー廃棄。

まとめ

- 笹山原遺跡の調査を始めてから24年になる。
- ようやく、笹山原遺跡にやってきた旧石器人の活動の実態を把握できるようになってきた。
- 彼らが猪苗代湖周辺にやって来て、新たな環境に適応し、資源をどのように開拓していったのか、同時に厳しい自然災害にどのように対処してきたのか、少しずつ明らかにしてゆきたい。

- 笹山原にやって来た旧石器人は、水辺に集まる草食動物を狩猟するのが目的であったろう。高地に位置する猪苗代湖は遅い春を迎える。その頃旧石器人もやってきた可能性が高い。彼らの石器装備は山形県産の頁岩が主体で、それ以前に手に入れた黒曜石（高原山産）を持っていた。遠隔地石材の保有量は底をつき始めていたので、在地石材である凝灰岩や凝灰質頁岩を採取していたが、あまり良質ではなく、求める形の剥片はうまく割れない。そこで、頁岩を再利用する工夫を行っている。投げ槍は槍先や柄が破損する。そのメンテナンスも必要である。鹿角や骨、木を加工して道具を作成する。テントは木と動物の皮で覆いを作る。獲物の動物の皮を加工して使う。食料となる草食動物はそれほど多いわけではない。肉を乾かし、焚火で燻し、保存食とする。笹山原にやって来たのは1家族か数家族、小規模な集団である。季節が変わる前に次のキャンプ地へと向かわなくてはならない。その準備も必要になる。